

各 位

上場会社名 株式会社 エスイー  
 代表者 代表取締役社長 森元峯夫  
 (コード番号 3423)  
 問合せ先責任者 取締役管理本部長 塚田正春  
 (TEL 03-3340-5500)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,910	614	708	437	56.99
今回発表予想(B)	11,245	328	402	205	26.81
増減額(B-A)	△664	△286	△305	△231	――
増減率(%)	△5.6	△46.6	△43.1	△53.0	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	11,177	547	635	385	50.17

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,550	540	550	302	39.32
今回発表予想(B)	11,022	323	330	103	13.51
増減額(B-A)	△527	△216	△219	△198	――
増減率(%)	△4.6	△40.1	△39.9	△65.6	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	11,035	499	512	268	34.94

## 修正の理由

## 1. 連結業績予想

連結業績予想につきましては、主に個別業績予想の修正に伴うものであります。また、米国に端を発した金融危機の影響が世界的に拡大するなか、日本においても実体経済への悪影響が深刻化しており、急激な景気悪化から製造業における生産下方修正や設備投資の減退として顕著に表れることが予想されます。これにより、連結対象子会社の「エスイーバイオマステクノ株式会社」においては、受注先の設備投資の削減懸念による受注減少の影響から売上および利益の減少が予想されます。一方、建設業界での国際化が進むなか、連結対象子会社「株式会社アンジェロセック」では、第4四半期において政府開発援助(ODA)を中心とした事業拡大と海外部門の充実を図ることいたしました。これにより、来期以降の収益確保体制を確立することができますが、当期純利益では23百万円の黒字であったものが8百万円の赤字となる見通しであります。

利益面では、持分法適用会社の「株式会社コリアエスイー」に係る「持分法による投資利益」80百万円(営業外収益)および「持分変動利益」33百万円(特別利益)を計上いたします。また、平成20年11月27日に「債権の取立不能又は取立遅延のおそれに関するお知らせ」で発表いたしました通り、営業債権の一部について、債務者が会社更生手続開始申し立てを行ったことにより、当該債権の回収不能の懸念が生じたので貸倒引当金繰入額108百万円(特別損失)を計上いたします。

この結果、連結業績予想は売上高11,245百万円(前回予想比664百万円減少)、営業利益328百万円(前回予想比286百万円減少)、経常利益402百万円(前回予想比305百万円減少)、当期純利益205百万円(前回予想比231百万円減少)と予測されます。

## 2. 個別業績予想

## (1)売上高

建設業界におきましては、国および地方公共団体での財政難等から、公共工事の縮減状態には歯止めがかからず、市場環境は引き続き低水準で推移するものと予測されます。

このことにより、当社の主力事業であります「建設用資機材の製造販売事業」のうち「環境・防災分野」では「アンカー」および「落橋防止装置」等の工場製品の販売が伸びず、この分野の売上高は8,205百万円(計画比594百万円減少)と予測されます。

なお、「橋梁構造分野」では「橋梁F型」および「橋梁FUT型」において斜材架設物件の受注消化が順調に推移していることから、この分野の売上高はほぼ計画通りの2,667百万円(計画比57百万円増加)と予測されます。

この結果、個別業績予想の売上高は11,022百万円(前回予想比527百万円減少)と予測されます。

## (2)営業利益・経常利益

利益減少の主な要因は、売上高の減少に伴う利益の減少であります。また、鋼材や原油価格の高止まりの影響および棚卸資産の評価減53百万円もコストプッシュの要因となりました。

この結果、個別業績予想の営業利益は323百万円(前回予想比216百万円減少)、経常利益330百万円(前回予想比219百万円減少)と予測されます。

## (3)当期純利益

営業債権の一部について、債務者が会社更生手続開始の申し立てを行ったことにより、当該債権の回収不能の懸念が生じたので、貸倒引当金繰入額108百万円(特別損失)を計上いたします。

この結果、個別業績予想の当期純利益は103百万円(前回予想比198百万円減少)と予測されます。

(注)上記業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と若干異なる可能性があります。

以上